

船舶事故調査報告書

平成30年10月24日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	平成30年5月27日 09時46分ごろ
発生場所	香川県高松市男木島 ^{おぎ} 北方沖 男木島灯台から真方位332° 240m付近 (概位 北緯34° 26.1′ 東経134° 03.6′)
事故の概要	漁船 ^{しんめい} 進明丸は、西北西進中、また、プレジャーボート ^{まんえい} 萬栄丸は、西進中、両船が衝突した。
事故調査の経過	平成30年6月15日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A 漁船 進明丸、2.4トン KA3-28294（漁船登録番号）、個人所有 第280-30579号（船舶検査済票の番号） B プレジャーボート 萬栄丸、1.0トン 271-19224岡山、個人所有
乗組員等に関する情報	A 船長A、二級小型・特殊・特定 B 船長B、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	A 左舷船尾部の錨架台に折損 B 右舷船首部のかんぬき先端に破損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北、風力 2、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 高潮時、潮流 東流約0.8ノット（kn） （備讃瀬戸）
事故の経過	A 船は、船長Aほか甲板員1人が乗り組み、さわらの引き釣りをしながら約1knの速力（対地速力、以下同じ。）で男木島北方沖を西北西進した。 A 船は、船長Aが、右舷船尾方約100mに西進するB船を認め、B船の船首部に2人いるのが見えたので、B船が微速力で航行中のA船の進路を避けて追い越すと思い、航行を続けたところ、B船が針路を変えずに至近に接近していることに気付き、左舵一杯を取ったものの、A船の左舷船尾部とB船の右舷船首部とが衝突した。 B 船は、船長Bが1人で乗り組み、友人2人（以下「同乗者」という。）を乗せ、釣り場を移動する目的で約5knの速力で西進中、船長Bが、右舷船首方至近のA船に気付き、機関を中立運転とした後、後進としたものの、A船と衝突した。 船長Bは、本事故当時、考え事をして下を向いていたので、船首方を見ていなかったと本事故後に思った。

	船長A、A船の甲板員、船長B及びB船の同乗者は、救命胴衣を着用していた。
分析	<p>A船は、男木島北方沖を引き釣りをしながら西北西進中、船長AがB船を認めた際、B船が微速力で航行中のA船の進路を避けて追い越すと思い、B船に対する見張りを適切に行っていなかったことから、B船が衝突のおそれのある状態で接近していることに気付くのが遅れ、左舵一杯を取ったものの、B船と衝突したものと考えられる。</p> <p>B船は、男木島北方沖を西進中、船長Bが、考え事をして下を向き、船首方の見張りを適切に行っていなかったことから、右舷船首方のA船に気付くのが遅れ、機関を後進としたものの、A船と衝突したものと考えられる。</p>
原因	本事故は、男木島北方沖において、A船が引き釣りをしながら西北西進中、B船が西進中、船長AがB船に対する見張りを適切に行っておらず、また、船長Bが船首方の見張りを適切に行っていなかったため、両船が衝突したものと考えられる。
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・航行中は、操船に集中し、常時適切な見張りを行うこと。 ・接近する他船を認めた場合、継続的に他船に対する見張りを行うこと。 ・漁労中であっても余裕のある時機に他船を避けるなどの措置を採ることが望ましい。